



平成28年10月27日

京都市立川岡小学校

図書館部

10月号

運動会が終わり、一気に秋の気配が色こくなってきました。秋は読書をするには、とてもいい時期です。「ぜひたくさんの方に親しんでくださいね。

「読書の秋」の由来

「読書の秋」と言われるようになった由来を知っていますか。この言葉の由来は、中国の古代にまでさかのぼります。唐の詩人、韓愈（かんゆ）が残した詩の中に、「灯火（とうか）親しむべし」という一節があります。この意味は、「秋になると涼しさが気持ちよく感じられ、あかり（灯火）で読書をするにはもってこいである。」という意味です。つまり、秋は読書に一番よい季節であると表現したこの一節が、「読書の秋」の由来なのだそうです。

秋は気候的に涼しくなり、とても過ごしやすくなります。また、「秋のつるべ落とし」と表現されるように、日暮れが早くなります。そして、夏と比べると、夜が長く感じられることから、その時間は読書をするのにふさわしいとされています。お気に入りの一冊を選んで、じっくり読んでみてください。



本のしようかい

「だいすき！絵本からうまれたおいしいレシピ」

著：きむらかよ

漫画や絵本、アニメに出てくるお菓子やごはん。「どうやって作るのだろう。」「食べてみたいなあ。」と、思ったことがあるのではないでしょうか。

この本には、絵本や本に出てくる食べ物のレシピがのっています。

「赤毛のアン」の「レモンタルト」、「14ひきのかぼちゃ」の「かぼちゃパイ」や「かぼちゃコロッケ」など、一度は読んだことがある絵本や本のレシピがのっています。写真を見ているだけで、なんだかおなかいっぱいになったように感じる一冊です。



りんりんにのんでいくよ

でいかくねんへのおすすめ

「14ひきの やまいも」 いわむら かずお

森の秋は、実りの秋です。おじいさんを先頭に、みんなで山いもほりをします。ばんごはんは、山いもをすって、とろとろの山いもごはんです。

「14ひきシリーズ」の絵本の絵は、どの作品もあたたかみのある色づかいで、えがかれている食べ物もとてもおいしそうです。ねずみの子どもたちがおいしそうに山いもごはんを食べている絵を見ると、一緒に食べたくなつてきます。



「凜九郎」 著：吉橋 通夫



少年剣士・凜九郎は、英國大使オールコック護衛の職を得る。そこで彼は勝鱗太郎と出会い、亡き父が幕府の密命をおびて働いていたことを知る。

時代小説です。歴史を学習した、高学年におすすめの本です。シリーズものです。ぜひ読んでみてください。



「秘密の花園」 バーネット作

インドで両親を亡くした少女メリーは、イギリスのおじさんの家に引き取られてきます。大きなお屋敷には、遊び相手はだれもいませんでした。ある日、立ち入ることを禁じられていた廊下に足をふみ入れたメリーの耳に、子どもの泣き声が…。

「怪盗紳士 怪盗ルパン」 モーリス・ルブラン

95 フランス文学
のたなにあります。

ニューヨークへ向かうフランスの豪華客船プロバンス号。乗船客はおそるべき知らせにふるえていた。金髪で右腕に傷、頭文字Rの怪人物。まさに高いルパンが、この船の一等船客にまぎれこんでいるという。高慢な大金持ちから金品をぬすみ、まずしい人には力をかす、フランスの英雄的大泥棒、怪盗紳士アルセーヌ・ルパンの登場だ。

「読書の秋」以外にも、「スポーツの秋」「食欲の秋」「芸術の秋」など、秋には色々と取り組めることが多いですね。二週間に一度は図書室に行って、どんどん本をかりて読みましょう！！

